

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																										
沖縄医療工学院	平成2年2月28日	野村美崎	〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7-10-6 (電話) 098-898-0701																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																										
学校法人SOLA学園	平成2年2月28日	野村美崎	〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7-9-8 (電話) 098-898-0701																										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																									
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ健康学科	平成4年文部科学省 告示第12号		-																								
学科の目的	本学科は、学校基本法及び学校教育法に基づき社会体育、健康管理及びスポーツビジネスに関する指導者を養成するとともに、競技レベルのスポーツ選手に対し適切なコンディショニング及び外傷障害からの競技復帰などを支援するトレーナーの人材育成を目的とする。																												
認定年月日	平成3年3月19日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習																								
2	年 昼間	1965時間	1155時間	0時間	60時間 0時間 750時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
80人	53人	1人	3人	10人	13人																								
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価の基準…評価は、満点を100点として、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDと表記し、S.A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。 成績評価は、定期試験、平常の成績、実習等成果により行う。																								
長期休み	■夏季:9月1日～9月30日 ■冬季:12月25日～1月4日 ■春季:3月21日～4月5日			卒業・進級 条件	進級の認定基準…各学年次の授業科目を履修した者は進級判定会議の議を経て、校長がこれを決定する。 卒業の認定基準…学科規定の修業年限以上在学し、すべての授業科目の単位の修得と卒業試験の合格が確認されれば、校長がこれを決定する。																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 LHR・個別相談・ICTを利用しての連絡や授業解説(オンデマンド等)			課外活動	■課外活動の種類 那覇市教育委員会主催イベントのボランティア ツール・ド・おきなわのエイドステーション運営 那覇マラソンの給水所運営 など ■サークル活動: 有																								
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) スポーツクラブ・デイケアサービス ■就職指導内容 企業説明会・インターンシップ・特別講話 ■卒業者数 : 31 人 ■就職希望者数 : 26 人 ■就職者数 : 20 人 ■就職率 : 77 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 65 % ■その他 ・進学者数: 3人 (令和 3 年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>NSCA-CPT</td><td>③</td><td>31</td><td>23</td></tr><tr><td>JATI-ATI</td><td>③</td><td>31</td><td>23</td></tr><tr><td>CKTT</td><td>③</td><td>31</td><td>31</td></tr><tr><td>健康運動実践指導者</td><td>③</td><td>31</td><td>29</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	NSCA-CPT	③	31	23	JATI-ATI	③	31	23	CKTT	③	31	31	健康運動実践指導者	③	31	29				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
NSCA-CPT	③	31	23																										
JATI-ATI	③	31	23																										
CKTT	③	31	31																										
健康運動実践指導者	③	31	29																										
中途退学 の現状	■中途退学者 3 名 ■中退率 6 % 令和3年4月1日時点において、在学者53名 (平成31年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者50名 (令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学前のオープンキャンパスや保護者説明会において学校生活・教育内容の理解を図る。 ・クラス担任による、初期段階での相談体制 ・部長、副校長、校長による段階的な指導体制 ・成績不振な学生に対する個別補講対応 ・教育相談室やカウンセリングルームの開設など																												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 学校法人SOLA学園経済的支援制度 意欲と能力のある学生が経済的理由により、修学を断念する事がないよう、経済的支援(入学金・授業料の一部免除)をすることを目的としている。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																												

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無
当該学科の ホームページ URL	http://www.sola.ac.jp

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業に必要な実践的かつ専門的な能力及びスポーツ業界の現場において即戦力となる能力を育成するために、体育施設、業界団体などとの連携を通じ、実践的な専門教育の確保に組織的に取り組み、産業業界からの要望・意見を活用し、学校が主体的に教育課程を編成する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かすため、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。

・業界における人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性に関すること

・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関すること

・科目シラバスに関すること

・実習・インターンシップ等に関すること等

②教育課程編成委員会の提言を踏まえ、学科会議及び学校教育課程委員会にて検討を行い授業科目の追加や授業内容・方法の改善を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更は理事会の決議を必要とする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
平識善盛	名桜大学 名誉教授	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	(2)
屋我 諭	日本健康運動指導士会 沖縄県支部 支部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	(1)
磯田 哲哉	SOLA沖縄医療工学院 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (1月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年1月27日 15:30～17:30

第2回 令和4年2月25日 17:00～19:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

チーム編成で課題発見や解決を目指す授業展開は、結果的に社会への対応能力形成に繋がると言う委員意見をいただき、イベントプランニングや生涯スポーツ関連授業に活用して指導、スポーツ行事に対する目的意識を向上させるため、グループワークによる指導案、企画書の作成・実施を行っている。また、卒業生等との関わりがあると将来の進路・キャリアがより明確になり、いい結果に繋がるのではないかとの意見をいただき、「トレーニング実習」「コンディショニング演習」を活用して卒業生を招くなどの実践的授業を実施している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通してスポーツ業界の現場で求められる専門的知識や技術のみならず、生涯スポーツ向上を目指す競技者・キッズ等に対する心理的配慮にも長けた感受性を磨くことを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は到達度・評価を項目別に点数化する。評価法は文書にて作成し、各学生に返却する。各学生は実習報告会にその成果と反省課題を発表する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
スポーツビジネスマネジメント	多種多様なスポーツの現場で働く方々のお話を聞く事で、自分自身の進路決定に繋げ、スポーツビジネスについて学ぶ。	一般社団法人地域総合型スポーツクラブアスリート工房
企業実習	企業実習の事前あいさつや実際の現場での実習を通して、社会人としてのマナーや接客時の対応、人とのコミュニケーションを学ぶ。	医療法人六人会 ロクト整形外科

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通してスポーツ業界のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。その為、本学園では学園教員研修規定に基づき、スポーツ業界や各種競技団体の最新の知識及び技術の修得と学生に対する指導力の向上を方針とし、企業との連携により、組織的な研修を行っている。また、教員の専門知識、技術向上のために上部団体や資格認定団体講習会等への参加を促している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ストレングス＆コンディショニングカンファレンス2021」(連携企業等:特定非営利活動法人 NSCAジャパン)

期間:令和3年12月14日(土)～12月15日(日) 対象: NSCA会員

内容: 健康寿命を延伸する食と運動・トップアスリートのピリオダイゼーションの有効性・競技特異性を考慮したトレーニングプログラム

②指導力の修得・向上のための研修等

0

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

0

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「つながるMeetup」(連携企業等: Edmodo)

期間: 令和4年実施予定(日付未定) 対象: edmodoを利用している学校教員

内容: 樟蔭中学校・高等学校で教頭補佐を務める川浪先生にedmodo利用事例を紹介していただき、その後参加教員でのディスカッションをおこなう。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と学校関係者が学校運営の現状と課題について共通理解を持ち協力することによって、教育活動その他学校運営の改善が適切に行われるようすることを目的として学校関係者評価を実施することを基本方針とする。学校関係者評価は、文科省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、全国専門学校経営研究会により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が学校評価委員会の点検・評価を基に作成する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標・人材育成像
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学習成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校、評価委員会、学園本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な分野の改善、方向性及び次年度以降の改善・解決等を具体化し、学校の質保証・向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所 属	任期	種別
平識善盛	名桜大学 名誉教授	令和2年3月26日～令和4年3月26日(2年)	企業等委員
屋我 諭	日本健康運動指導士会 沖縄県支部 支部長	令和2年3月26日～令和4年3月26日(2年)	企業等委員
津霸 麗夜	スポーツ科学CSトレーナー学科 卒業生	令和2年3月26日～令和4年3月26日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法:ホームページ (<https://sola.ac.jp/syokugyo-jissen/>)

公表時期:令和4年9月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校は、公益法人の教育機関として社会的責務を果たすため教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰並びに学校経営に係る事項など、運営改善に資することを目的に情報の公開を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)教育理念・目標・人材育成像
(2)各学科等の教育	(2)学校運営
(3)教職員	(3)教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)学習成果
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)学生支援
(6)学生の生活支援	(6)教育環境
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	(8)財務
(9)学校評価	(9)法令等の遵守
(10)国際連携の状況	(10)社会貢献・地域貢献
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:

授業科目等の概要（令和3年度の1年生の新カリを載せる）

(文化・教養専門課程スポーツ科学CSトレーナー学科)															企業等との連携	
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択		授業科目概要	授業科目概要	授業科目概要			授業科目概要	授業科目概要	授業科目概要	授業科目概要	授業科目概要	授業科目概要	授業科目概要	
○			フィットネス概論	テキストを使用し、日本の健康問題からメタボリックシンドローム・ロコモティブシンドロームを学ぶ	1・前	30	2	○			○	○				
○			機能解剖学 I	骨格、筋、関節の動きなどを学ぶ。 テキストに基づいたオリジナルプリントで学んでいく	1・前	30	2	○			○			○		
○			発育・発達論	ヒトが生まれてから成長、発達、老化を経ていく過程で、体にどのような変化が起こっているのかを理解し、各時期における運動刺激の効果及び影響を学ぶ	1・前		2	○			○			○		
○			解剖生理学	人体について系統別に学習し、その構造と機能が理解できるように学ぶ	1・前	30	2	○			○			○		
○			スポーツ心理学	スポーツをする人や見る人、競技者の心理を学び、将来、運動指導の場で適切な指導ができるよう、スポーツ心理の知識や理論を学ぶ	1・前	30	2	○			○			○		
○			ウェイトトレーニング I	安全で効果的なトレーニングを提供するための基礎（エクササイズ名、使用筋群、動作）を学ぶ。	1・前	30	1			○	○		○			
○			トレーニング科学	スポーツ指導者として個人の健康づくりやトレーニング目的に合った運動指導ができるよう、トレーニングや身体動作についての知識を学ぶ	1・前	30	2	○			○			○		
○			水泳	水中の特性および、水泳・水中ウォーキング・アクアビクスの違いを学び、4泳法の指導方法と水中での安全管理を学ぶ	1・前	30	2	○			○		○			
○			エアロビクス I	有酸素運動としてのエアロビックダンスを体験し、内容や効果について学ぶ	1・前	30	1			○	○		○			
○			体力測定評価法	正しい体力の測定法・評価法を理解し、各体力を正確に測定する方法および技能を学ぶ	1・前	30	2	○			○		○			
○			障がい者スポーツ論	障がいへの理解・スポーツ導入への動機づけ、実施方法について学ぶ	1・前	30	2	○			○			○		

○		ストレッチ基礎	各部位へのストレッチの実施方法を学ぶ	1 ・ 前	30	2	○			○		○
○		運動生理学	運動する際の身体の各器官における役割や運動に伴う応答、変化について、基礎的な知識を学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		スポーツマッサージ I	スポーツにおける基本的なマッサージを学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		スポーツ栄養学	五大栄養素や各栄養素の役割について理解し、運動時の栄養摂取法について学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		スポーツテープニング	機能解剖学等で学んだ基礎知識を活用し、筋肉や各関節に合わせたテープニングを学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		スポーツ傷害	内科的障害、整形外科的な障害と外傷について理解し、対処方法や予防方法、さらにリハビリテーションを学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		ウェイトトレーニング II	レジスタンスエクササイズを理解し、指導方法を学ぶ	1 ・ 後	30	1				○	○	○
○		コンディショニング I	競技者のコンディショニングについて理解し、適切な指導ができるようコンディショニングの基礎知識を学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		エアロビクス II	音楽の特徴を理解し、適切なタイミングでキューイングが出せ、指導者として正しくエアロビックダンスの動きを学ぶ	1 ・ 後	30	1				○	○	○
○		トレーニング理論 I	運動に対する身体についての基本的な知識と、体力評価法やプログラムデザイン等の指導手順について学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		機能解剖学 II	身体運動に関する骨と筋肉の名称、関節のしくみなどを学ぶ	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		ストレッチ実技応用	各部位へのストレッチの実施方法を学ぶ。	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		マラソン I	有酸素運動について学び、自己管理やマラソン大会出場に向けてのトレーニング方法や食事について自身で体験する	1 ・ 後	30	2	○			○		○
○		スポーツマッサージ II	スポーツマッサージの基礎を元にして、さらなる手技を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○		○

○		ス ポ ーツ 医 学・救 急 处 置 法	整形外科的疾患や生活習慣病と運動との関わりを理解し、安全かつ効果的な運動指導を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		トレーニング 理論Ⅱ	トレーニングメニューを組む際の注意点や原理、原則を踏まえて、より実践的な方法を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		コンディショニングⅡ	各スポーツ種目について個人の動作を観察し、それに応じたストレッチやテーピング、トレーニングを学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		ウエイトトレーニングⅢ	ウエイトトレーニングの正しいフォームを習得すると共に、補助の仕方や運動のポイントの説明、指導ができるように学ぶ	2 ・ 前	30	1			○	○	○	
○		パワーリハビリテーション	老化や介護の予防法の一つであるパワーリハビリテーションの特性や効果、方法、プログラムの組み方等を学ぶ	2 ・ 後	30	2	○			○	○	
○		運動プログラム	スポーツトレーナーとして大切な運動のプログラミングや運動処方の基礎を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		キネシオテープリングⅠ	傷害や各症状、各部位に合わせて、基本的なキネシオテープリングの貼り方を順に学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		健康運動概論Ⅰ	地域の人々の健康づくりを担う健康運動指導者として必要な、健康や運動指導に関する基本的知識を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		エアロビクスⅢ	プログラム作成からキュービングテクニック、指導力を高める手法を学ぶ	2 ・ 前	60	2			○	○	○	
○		エクササイズテクニックⅠ	ストレングス＆コンディショニングの実技と理論を段階的に取得し、指導力を向上させる手法を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		テーマ研究	学生が興味・関心のあるスポーツ分野について調べ、発表し、内容について意見し合う	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		バイオメカニクス	スポーツバイオメカニクスとしての運動力学、生理学、解剖学などの基礎知識を学ぶ	2 ・ 前	30	2	○			○	○	
○		アクアビクス	アクアウォーキング、アクアビクス、アクアレジスタンスの水中運動指導を学ぶ	2 ・ 前	60	2			○	○	○	
○		企業実習	事前挨拶や実際の現場での実習を通して、社会人としてのマナーやお客様との関わり方を少しでも多く学ぶ	2 ・ 通年	60	2			○	○	○	○

○		コンディショニングⅢ	トレーナーとして必要な各スポーツ種目や個人の特性に応じた、コンディショニングの整え方やトレーニングの組み方を学ぶ	2・後	30	2	○			○		○
○		ウェイトトレーニングⅣ	トレーニングの正しいフォームや方法、プログラム等を理解することにより、個人の特性に合った指導の手法を学ぶ	2・後	30	1			○	○		○
○		キネシオテーピングⅡ	スポーツ傷害や各種疾患を調べ、学習しキネシオテーピングや各種治療法について学ぶ	2・後	30	2	○			○		○
○		トレーニング理論Ⅲ	アスリートや疾患、傷害を持つアスリートに対するトレーニング法や運動法、禁忌となる動き等を学び、安全に配慮した機器のメンテナンスや、法的諸問題についても学ぶ	2・後	45	3	○			○		○
○		エクササイズテクニックⅡ	あらゆるスポーツ動作や日常動作に共通する基本的な身体の使い方と、それを可能にさせる基礎的な筋力と柔軟性をより単純なエクササイズ動作を通じ学んでいく	2・後	30	2	○			○		○
○		健康運動概論Ⅱ	将来、地域の健康づくりを担う運動指導者として必要な栄養や体力評価等の知識を学ぶ	2・後	30	2	○			○		○
○		スポーツビジネスマネジメント	スポーツビジネスについて学び、今後自分が将来的にパーソナルトレーナーとして独立する為の知識や技術を学ぶ	2・前	30	2	○			○		○
○		健康運動概論・実技	「陸上運動」「水中運動」「レジスタンス運動」を理解し、安全で、楽しく、効果的な集団指導を行う指導者としてのスキルを学ぶ	2・後	60	2			○	○		○
○		エアロビクスⅣ	プログラム作成・キュービングテクニック・指導力等の更なるスキルアップを目指し、現場でのグループ指導の手法を学ぶ。	2・後	60	2			○	○		○
○		マラソンⅡ	事前の準備（トレーニング、栄養面、メンタル面）から、マラソン大会終了後のケアまで一通り自分自身で取り組む事が出来るようになる	2・後	30	2	○			○		○
○		高齢者運動指導	高齢者の身体的変化、精神的変化などを考慮した運動指導を考えられるように、具体的な状態を理解する	2・後	30	2	○			○		○
○		課外活動	スポーツ現場でのボランティア（大会運営やケア等）を通して、スポーツ大会やスポーツイベントを運営する為の知識や方法を学ぶ	1・通年	30	1			○	○	○	○
○		情報リテラシーⅠ	表計算ソフトの操作に関して基礎的な技能を有し、日常業務において独立で表作成ができる基礎的な知識を学ぶ	1・前	30	2	○			○		○
○		情報リテラシーⅡ	表計算ソフトの操作に関して応用的な技能を有し、日常業務において独立で表作成ができる基礎的な知識を学ぶ	1・後	30	2	○			○		○

○		ビジネスマナー I	就職面接に関する知識と効果的な対応の技量を学ぶ	1 前	30	2	○			○		○
○		ビジネスマナー II	自己表現のためのプレゼンテーション技法を身につけ、ビジネスマナーの基本を学ぶ	1 後	30	2	○			○		○
○		就職対策 I	就職面接に関する知識と効果的な対応の技量を学ぶ	2 前	30	2	○			○		○
○		就職対策 II	プレゼンテーション能力向上に繋がるテーマに基づいて授業を展開する	2 後	30	2	○			○		○
○		特別活動 I	クラスでの交流や他学年、他学科との交流を通して、多くの人とコミュニケーションをとり、協調性や自主性を養う	1 通年	30	2	○			○		○
○		特別活動 II	スポーツ業界の仕事の種類について知り、自分自身の今後の企業実習や就職活動へと繋げていく	2 通年	30	2	○			○		○
合計			60科目	1935単位時間(112単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件・・・学科の教育課程に定められた必修科目のうち、卒業学年度までに履修しなければならない科目を修得した者。	1学年の学期区分	2期

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
沖縄医療工学院	平成2年2月28日	野村美崎	〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7-9-8 (電話) 098-898-0701		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人SOLA学園	平成2年2月28日	野村美崎	〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7-9-8 (電話) 098-898-0701	所在地	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ健康学科 スポーツ整体コース	平成21年文部科学省 告示第21号	-	
学科の目的	本学科は、学校教育法及び学校教育法に基づき社会体育、健康管理及びスポーツビジネスに関する指導者を養成するとともに、整体及びリラクゼーションセラピストなどの人材育成を目的とする。				
認定年月日	平成〇年〇月〇日				
修業年限	昼夜 2年 生徒総定員	全課程の修了に必要な 授業時数又は単位数 2022時間 80人	講義 966時間	演習 0時間	実習 90時間 0時間 966時間
学修支援等	長期休み	■夏 季:9月1日～9月30日 ■冬 季:12月25日～1月4日 ■春 季:3月21日～4月5日	成績評価 卒業・進級 条件	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価の基準…評価は、満点を100点として、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDと表記し、S.A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。 成績評価は、定期試験、平常の成績、実習等成績により行う。	■成績評価の基準・方法 成績評価の基準…各学年次の授業科目を履修した者は進級判定会議の議を経て、校長がこれを決定する。 卒業の認定基準…学科規定の修業年限以上在学し、すべての授業科目の単位の修得と卒業試験の合格が確認されれば、校長がこれを決定する。
就職等の状況※2	就職等の状況	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 整骨院・機能訓練ディサービス ■就職指導内容 企業説明会、インターンシップ ■卒業者数 19 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 18 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 95 % ■その他 ・その他: 1人(進学希望)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■課外活動の種類 くめじまマラソン(ボランティア・中止) とかしきマラソン(ボランティア・中止) ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)	■課外活動の種類 くめじまマラソン(ボランティア・中止) とかしきマラソン(ボランティア・中止) ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)
中途退学の現状	中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和3年4月1日時点において、在学者28名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者26名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 他職種への就職・進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学前のオープンキャンパスや保護者説明会において学校生活・教育内容の理解を図る。 ・クラス担任による、初期段階での相談体制 ・成績不振な学生に対する個別補講対応 ・教育相談室やカウンセリングルームの開設など	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■資格・検定名 整体セラピスト2級 種 ③ 受験者数 19人 合格者数 18人 ■健康運動実践指導者 種 ③ 受験者数 19人 合格者数 17人 0 0 0 0 0 0 0	■資格・検定名 整体セラピスト2級 種 ③ 受験者数 19人 合格者数 18人 ■健康運動実践指導者 種 ③ 受験者数 19人 合格者数 17人 0 0 0 0 0 0 0
経済的支援制度	経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 学校法人SOLA学園経済的支援制度 意欲と能力のある学生が経済的理由により、修学を断念することができないよう、経済的支援(入学金・授業料の一部免除)をすることを目的としている。	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
第三者による学校評価	第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無	主な学修成果 (資格・検定等) ※3		
当該学科のホームページURL	当該学科のホームページURL	http://www.sola.ac.jp	主な学修成果 (資格・検定等) ※3		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものといいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目又は履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学部、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事を就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なものの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するものの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業実践に必要な実践的かつ専門的な能力及びスポーツ業界・整体セラピスト業界の現場において即戦力となる能力を育成するため、体育施設、業界団体などとの連携を通じ、実践的な専門教育の確保に組織的に取り組み、産業界等からの要望・意見を活用し、学校が主体的に教育課程を編成する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かすため、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。

・業界における人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性に関すること

・実務に必要な最新の知識、技術、技能に関すること

・科目シラバスに関すること

・実習、インターンシップ等に関すること等

②教育課程編成委員会の提言を踏まえ、学科会議及び学校教育課程委員会にて検討を行い授業科目の追加や授業内容・方法の改善を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更は理事会の決議を必要とする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
平識善盛	名桜大学 名誉教授	令和3年4月1日～令和5年3月31日	②
屋我 諭	日本健康運動指導士会 沖縄県支部 支部長	令和3年4月1日～令和5年3	①
譜久里 武	一般社団法人地域総合型スポーツクラブ	令和3年4月1日～令和5年3	①
下地隆之	NPO法人バリアフリーネットワーク会議	令和3年4月1日～令和5年3	③
平良 一彦	沖縄医療工学院 校長	令和3年4月1日～令和5年3	
川平 敦	沖縄医療工学院 校長補佐	令和3年4月1日～令和5年3	
大山敦史	スポーツ健康学科 教員	令和3年4月1日～令和5年3	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (1月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年1月27日 15:30～17:30

第2回 令和4年2月25日 17:00～19:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員より現場で活用されている手技の必要性や学校のコンセプトであるスポーツ整体コースとのつながりが気づけるカリキュラム作成の必要性についての意見もあり、日常生活上のアドバイスができる知識として福祉系の講義内容を実施し、整体治癒の知識だけでなくバリアフリーや各種支援事業の存在を知りえるカリキュラムを実施。また、身体のパフォーマンスを公表するための手技等、委員の意見を取り入れ、現場でのスキルアップにつながることなどを展開している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通してスポーツ業界の現場で求められる専門的知識や技術のみならず、生涯スポーツ向上を目指す競技者・キッズ等に対する心理的配慮にも長けた感受性を磨くことを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は到達度・評価を項目別に点数化する。評価法は文書にて作成し、各学生に返却する。各学生は実習報告会にその成果と反省課題を発表する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
整体臨床実技Ⅲ	臨床例の講義を行い、筋肉と骨の違いを理解し、骨を支える靭帯と骨を動かす腱の施術を行う。	山川長生治療院
整体臨床実技Ⅳ	整体応用技術を実践し、施術方法を学ぶ。	山川長生治療院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通してスポーツ業界のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、本学園では、学園教員研修規定に基づき、スポーツ業界や各種競技団体の最新の知識及び技術の修得と学生に対する指導力の向上を方針とし、企業との連携により、組織的な研修を行っている。また、教員の専門知識、技術向上のために上部団体や資格認定団体講習会等への参加を促している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整体セラピスト認定対策講座」(連携企業等:日本セラピスト認定協会)

期間:令和4年1月26日(水) 対象: スポーツ健康学科 スポーツ整体コース

内容:整体セラピスト検定3級、2級試験に向けて授業を行う際のポイントや留意点を学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修会」 (連携企業等:川満秀昭 客員講師)

期間:令和2年3月24日(火) 対象: スポーツ健康学科 スポーツ整体コース

内容:即戦力となる人材育成をするまでの留意点、授業の工夫点等について学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整体セラピスト認定対策講座」(連携企業等:日本セラピスト認定協会)

期間:令和5年2月1日(水) 対象: スポーツ健康学科 スポーツ整体コース

内容:整体セラピスト検定3級、2級試験に向けて授業を行う際のポイントや留意点。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「SDGsについて」(連携企業等:沖縄県 企画調整課)

期間:令和2年9月30日(水) 対象: スポーツ健康学科 スポーツ整体コース

内容:これからの社会では、地球規模での持続可能な開発を実現することが求められており、SDGsの目的について理解し、世界的な目標や取り組みについて理解し授業での活用を行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と学校関係者が学校運営の現状と課題について共通理解を持ち協力することによって、教育活動その他学校運営の改善が適切に行われるようすることを目的として学校関係者評価を実施することを基本方針とする。学校関係者評価は、文科省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、全国専門学校経営研究会により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が学校評価委員会の

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標・人材育成像
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学習成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校、評価委員会、学園本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な分野の改善、方向性及び次年度以降の改善・解決等を具体化し、学校の質保証・向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
平識善盛	名桜大学 名誉教授	令和2年3月26日～ 令和4年3月26日(2年)	有識者
屋我 諭	日本健康運動指導士会 沖縄県支部 支部長	令和2年3月26日～	企業等委
下地隆之	NPO法人バリアフリーネットワーク会議	令和2年3月26日～	企業等委

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法:ホームページ (<https://sola.ac.jp/syokugyo-jissen/>)

公表時期:令和4年9月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校は、公益法人の教育機関として社会的責務を果たすため教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰並びに学校経営に係る事項など、運営改善に資することを目的に情報の公開を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)教育理念・目標・人材育成像
(2)各学科等の教育	(2)学校運営
(3)教職員	(3)教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)学習成果
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)学生支援
(6)学生の生活支援	(6)教育環境
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	(8)財務
(9)学校評価	(9)法令等の遵守
(10)国際連携の状況	(10)社会貢献・地域貢献
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://sola.ac.jp/syokugyo-jissen/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ整体・メディカルトレーナー学科)														
分類			授業科目名	授業科目概要			授業方法		場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択		配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			整体基礎実技 I	1 前	40	1			○ ○				○	
○			整体臨床実技 I	1 前	60	2			○ ○				○ ○	
○			整体理論と実技 I	1 前	60	2			○ ○			○		
○			アロマセラピー I	1 前	30	2	○			○			○	
○			ウェイトトレーニング実技 I	1 前	30	1			○ ○				○	
○			機能解剖学 I	1 前	30	2	○			○		○		
○			解剖生理学	1 前	30	2	○			○		○	○	
○			健康つくり論	1 前	30	2	○			○			○	

○		ストレッチ基礎	各部位へのストレッチの実施方法を学ぶ。その上でパッシブ・スタティック・ストレッチの特性や効果を理解し、適切な指導力を身に付けることを目的とする。	1 前	30	1			○	○	○	
○		発育発達論	ヒトが生まれてから成長、発達、老化を経ていく過程で、体にどのような変化が起こっているのかを科学的に理解し、各時期における運動刺激の効果及び影響を学習する。	1 前	30	2	○		○		○	
○		スポーツ心理学	授業前半は、自分のスポーツ経験を振り返ることや目標設定の実践等を通して、自己についての理解を深める。後半はスポーツをする人や見る人、競技者の心理を学び、将来、運動指導の場で適切な指導ができるよう、スポーツ心理の知識や理論を理解す	1 前	30	2	○		○		○	
○		体力測定評価法	各体力の正しい測定法を理解し、実践する。また測定結果から何を知り、体力の向上や健康増進にどう活かせるかを考える。	1 前	15	1	○		○	○		
○		運動生理学	運動時に必要とされる身体の各器官の役割や運動に伴う各器官の変化について学ぶ。本講義のなかで、運動指導者として必要な運動生理学の基本的知識を身につけ、適切な運動処方が出来るようになることを期待する。	1 後	30	2	○		○		○	
○		救急処置法	心肺蘇生法、怪我の処置等、一次救命処置・応急処置について学ぶ。	1 後	15	1	○		○		○	
○		整体基礎実技Ⅱ	整体基礎動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。	1 後	40	1			○	○		○
○		整体臨床実技Ⅱ	整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。実際に臨床例の講義を行い筋肉と骨の違いを理解させ、骨を支える靭帯と骨を動かす腱の手術を行う。	1 後	60	2			○	○		○
○		整体理論と実技Ⅱ	重要事項や解剖用語を説明し、人体模型を駆使し、テキストに基づいたオリジナルプリントを使用し、授業を行う。テキストに基づいたオリジナルプリントを使用し、授業を行う。	1 後	60	2			○	○	○	
○		アロマセラピーⅡ	アロマセラピー基礎知識を学び、アロマグッズや生活用品を通して、生活環境の変化を楽しみながら実践、調合法を学習する。また、心・体の症状に合わせた調合法を学び精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深める。	1 後	30	2	○		○		○	

○	ウェイトトレーニング実技Ⅱ	レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。NSCA JAPANストレングス＆コンディショニングⅡのテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。	1 後	30	1			○	○		○
○	スポーツ栄養学	五大栄養素や各栄養素の役割について理解させ運動時の栄養摂取法について理解する。	1 後	30	2	○		○			○
○	スポーツ傷害	内科的障害、整形外科的な障害と外傷について理解し、対処方法や予防方法、さらにリハビリテーションを学ぶ。	1 後	30	2	○		○			○
○	トレーニング理論Ⅰ	将来、一人一人のクライアントのニーズに応じたトレーニング指導ができるよう、運動に対する身体についての基本的な知識と、体力評価法やプログラムデザイン等の指導手順についての理解を深める。	1 後	30	2	○		○			○
○	機能解剖学Ⅱ	骨格、筋、関節の動きなどを学ぶため、骨格モデルや映像などを駆使して授業を行う。中間テスト、期末テストおよび宿題レポートなどで評価していく。テキストに基づいたオリジナルプリントで学習を進めていく。	1 後	30	2	○		○			○
○	障がい者スポーツ理論	初級障がい者スポーツ指導員の資格取得をめざす科目設定で講義を進めると共に、余暇活動を利用した現場活動に繋がるプログラムを実施する。	1 後	30	2			○	○		○ ○
○	テーマ研究	学生が興味・関心のあるスポーツ分野について調べ、発表し、内容について意見し合う。	1 後	30	2	○		○			○
○	ストエッチ理論応用 (PNF)	各部位へのストレッチの実施方法を学ぶ。その上でPNFストレッチの特性や効果を理解し、適切な指導力を身に付けることを目的とする。	1 後	30	1			○	○		○
○	情報リテラシーⅠ	表計算ソフトの操作に関して基礎的な技能を有し、日常業務において独立で表作成ができる基礎的な知識の習得を目指す。	1 前	30	2	○		○			○
○	就職実務Ⅰ	就職関連テーマを優先してテーマを設定する。プレゼンテーション及びコミュニケーション技法向上のためのテーマを設定し授業を展開する。併せて、接客の現場への対応と第一印象アップに繋がるビジネスマナーの習熟を目指す。	1 前	30	2	○		○			○

○		特別活動 I	クラスでの交流や他学年、他学科との交流を通して、多くの人とコミュニケーションをとり、協調性や自主性を養う。企業説明会では、業界の仕事の種類について知り、自分自身の今後の企業実習や就職活動へと繋げていく。	1 前	30	1			○	○	○	
○		就職実務 II	ビジネス能力検定を視野に入れつつも、ビジネスマナーや就職関連テーマを優先して展開する。ビジネス能力検定3級テキストに基づいて授業を展開し、隨時、確認テストで知識の定着を図る。ビジネス能力検定終了後は、就職採用試験に向けて、就職対策	1 後	30	2	○		○	○	○	
○		特別活動 II	企業説明会を実施し、2年次の企業実習へ繋げることが出来るよう取り組む。体調面、精神面共に不調が出てくる時期もある為、各々しっかりと向き合い、個人面談を行って学生の現在の状況をしっかりと把握する。くめじまマラソン、ツールドおきなわ、とかしきマラソンなどにボランティアスタッフとして参加する。	1 後	30	1			○	○	○	
○		整体応用実技 I	整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。	2 前	60	2			○	○	○	
○		整体臨床施術演習 I	実際に臨床例の講義を行い、筋肉と骨の違いを理解し、骨を支える韌帯と骨を動かす腱の施術を行う。地域のデイサービスに出かけ、利用者に対し施術を行う。	2 前	60	2			○	○	○	○
○		アロマテラピーIII	アロマテラピー基礎の復習（取り扱い利用法）、多くの実践する機会を作ることによって、心・体の症状に合わせた調合法を学び、精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深め、専門的技術を学習し、セラピストとしての心構え、クライアントを受容する姿勢を身に付けることを意識して授業を行う	2 前	30	1			○	○	○	
○		レジスタンストレーニング指導 I	レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。NSCA JAPANストレーニングス＆コンディショニングⅡのテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。	2 前	30	1			○	○	○	
○		キネシオテープニング I	スポーツ競技の現場において、応急処置ができるトレーナーを目指す。	2 前	30	1			○	○	○	
○		トレーニング理論 II	トレーニングメニューを組む際の注意点や原理を踏まえてトレーニングを組む。また、NSCAの資格対策も兼ねながら、理解度に応じて、小まめにテスト問題を行うものとする。	2 前	30	2	○		○	○	○	
○		健康運動概論 I	健康運動実践指導者テキストに沿ったオリジナルプリントにて進めていく。	2 前	30	2	○		○	○	○	

○		健康づくりと運動	ウォーミングアップ・メインの有酸素運動・クーリングダウンを実践し、自ら考えプログラムし集団指導ができるよう、ドリルを中心に行う。グループワーク等も行い、実際に発表させ、現場での指導にも活かせるものとする。	2 前	30	1			○	○		○
○		リンパケア I	栄養学もこれからは摂取から排泄の時代といわれており、排泄機能を有するリンパに着目している。リンパを流し、排泄を促進するという理論をしっかりと理解し、専門的技術の習得を目的とする。	2 前	30	2	○		○	○		○
○		テーピング実践	機能解剖学等で学んだ基礎知識を活用し、筋肉や各関節に合わせたテーピングを行う。	2 前	30	1			○	○		○
○		運動プログラム	最新フィットネス基礎理論の運動処方を中心理解を深めていく。中間テストと期末テストを実施し、理解度を確認する。	2 前	30	2	○		○			○
○		就職対策 I	就職採用試験に備えて、出願書類作成および面接の実践、活用に備える。組織の一員として円滑に仕事を進めるために必要なビジネスマナーそして接遇マナーの習熟のためのテーマに取り組む。	2 前	30	2	○		○			○
○		特別活動III	渡嘉敷島研修や球技大会でのリーダーとしての活動、周囲のサポート等を学生主体で考え行動するようとする。企業説明会を行い、企業実習に向けての取り組みが主となるが、その際は学科内の教員で協力し学生をサポートしていく。必要であれば、面接	2 前	30	1			○	○		○
○		整体応用実技 II	整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。	2 後	60	2			○	○		○
○		整体臨床施術演習 II	実際に臨床例の講義を行い、筋肉と骨の違いを理解し、骨を支える靱帯と骨を動かす腱の施術を行う。地域のデイサービスに出かけ、利用者に対し施術を行う。	2 後	60	2			○	○		○ ○
○		アロマセラピーIV	アロマセラピー基礎の復習（取り扱い利用法など）、多くの実践する機会を作ることによって、心・体の症状に合わせた調合法を学び、精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深め、専門的技術を学習し、セラピストとしての心構え、クライアントを受容する姿勢を身につけることを意識して授業を行う。	2 後	30	2	○		○			○
○		レジスタンストレーニング指導 II	レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。ワイダーストレングス＆コンディショニングエクササイズ・バイブルテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。	2 後	30	1			○	○		○

○		スポーツ医学	整形外科的疾患や内科疾患と運動の関わりを理解する。	2 後	30	2	○		○	○	○
○		リンパケアⅡ	栄養学もこれからは摂取から排泄の時代といわれており、排泄機能を有するリンパに着目している。リンパを流し、排泄を促進するという理論をしっかりと理解し、専門的技術の習得を目的とする。	2 後	30	1		○	○		○
○		健康運動概論Ⅱ	健康運動実践指導者テキストに沿ったオリジナルプリントにて進めていく。	2 後	36	2	○		○		○
○		健康運動概論・実技	健康運動実践指導者の実技試験を熟知し、合格レベルを目指す。エアロビクス指導、陸上での自体重レジスタンス指導が合格ラインになるようになる。水中運動指導、水中でのレジスタンス指導が合格ラインになるようになる。	2 後	36	1		○	○		○
○		就職対策Ⅱ	プレゼンテーション能力向上に繋がるテーマに基づいて授業を展開する。就職関連テーマ（履歴書・エントリーシート・添え状・面接）を優先して実施する。接客の現場に応じたビジネスマナーの習熟を図る。	2 後	30	2	○		○	○	
○		特別活動Ⅳ	企業実習を終え、就職活動に取り組んでいる学生フォローアップを行う就職が内定した後の事も踏まえ、卒業生の講話等も実施しながら、学生各自にアプローチをする。くめじまマラソンにボランティアスタッフとして参加する。	2 後	30	1		○	○	○	
○		企業実習（インターンシップ）	実際に学生自身が興味のある企業に企業実習受け入れを依頼し、先方からの承認後に企業実習を行う。期間は約1週間とする。実習先で毎日日誌を記入し、実習担当者からサインを貰う。実習終了後には実習先担当者からの総評を頂き、企業実習ノートを本学担当教員へ提出する。	2 夏	30	1		○	○	○	○
合計		55 科目				1892単位時間(89 単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業条件：学科の教育課程に定められた必修科目のうち、卒業学年度までに履修しなければならない科目を修得した者。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。